

# 2025 年度 自己点検・自己評価結果報告書

2026 年 3 月

関西看護専門学校 看護専門課程 看護学科  
自己点検・自己評価委員会

# 目次

1. はじめに.....	1
2. 2025 年度 自己点検・自己評価結果.....	2
3. カテゴリーごとの総括評価	
I. 教育理念・目的・育成人材像.....	3
II. 学校運営.....	4
III. 教育活動.....	5
IV. 学修成果.....	7
V. 学生支援.....	9
VI. 教育環境.....	10
VII. 学生の募集と受け入れ.....	11
VIII. 財務.....	12
IX. 法令等の遵守.....	13
X. 社会貢献・地域貢献.....	14
4. おわりに.....	15

## 1.はじめに

本校は、1975年に前身である関西准看護学院として開校し、1980年には社会福祉法人枚方療育園を設置主体として「関西看護専門学校」の認可を受け、改称した。1981年に3年課程全日制を設置し、以来、同法人が運営する施設及び関連病院で活躍できる看護師の育成を目的として、医療・福祉に貢献する人材の育成に取り組んできた。本校の教育理念である「やさしい手と確かな目で、大切ないのちを護る人を育成する」に基づき、感性豊かな人間性と専門職者としての主体性を養い、創造性ある看護実践者の育成を目指して教育活動を展開している。これまでに多くの卒業生を輩出し、地域社会における保健・医療・福祉の分野に貢献してきた。

本校では、専修学校としての教育水準の維持・向上と社会的使命の達成を目的として、2010年に「自己点検・自己評価委員会」を設置した。2017年度末に初めて結果を公表して以降、継続的な改善に取り組んでいる。2021年度には、自己評価指針を厚生労働省ガイドラインから文部科学省ガイドラインに準拠したものへと改定し、自己点検・自己評価結果を公表した。さらに2022年度には、自己点検・自己評価結果の客観性と透明性を高めるため、「学校関係者評価」を初めて実施し、その結果を公表した。これらの取り組みは、教育の質向上と社会的説明責任の遂行に資するものである。また、2022年4月からは第5次カリキュラム改正に伴う新カリキュラムを施行し、2025年3月にはその教育課程を修了した卒業生を輩出した。

本報告は、2025年度に実施した自己点検・自己評価の結果を取りまとめたものであり、今後の教育活動のさらなる充実と改善に向けた基盤資料として位置づけるものである。今後も本校は、地域に根ざした看護教育機関としての使命を果たすべく、継続的な自己評価と教育改革に取り組み、より良い教育環境の提供に努めていく。

## 2. 2025 年度 自己点検・自己評価結果

2025 年度の自己点検・自己評価は、「専修学校における学校評価ガイドライン（文部科学省）」に基づき、教職員を対象として実施した。3 段階評価の平均値を用い、カテゴリーごとに評価を行った。その結果「学校運営」「教育環境」は前回より評価得点が上昇した一方で、「法令等の遵守」は同得点も、その他の項目では、低下する結果となった。これらの結果を踏まえ、次章以降においてカテゴリーごとに評価結果の概要、現状の取り組み、評価に影響した要因の分析、今後の課題について整理する。

表 1 自己点検・自己評価結果（2025 年度/2023 年度/2021 年度）評価点/3 点満点

項目	2025 年度	2023 年度	2021 年度
I. 教育理念・目的・育成人材像	2.48	2.63	2.37
II. 学校運営	2.34	2.31	2.43
III. 教育活動	2.38	2.56	2.63
IV. 学修成果	2.28	2.31	2.29
V. 学生支援	2.15	2.31	2.24
VI. 教育環境	2.57	2.34	2.44
VII. 学生の募集と受け入れ	2.48	2.58	2.60
VIII. 財務	2.27	2.34	2.17
IX. 法令等の遵守	2.56	2.56	2.26
X. 社会貢献・地域貢献	2.08	2.21	2.11

対象：教職員 32 名 回収率：87.5%（回収方法は紙媒体にて配布し期限を決めて回収）

評価方法：「専修学校における学校評価ガイドライン」（文部科学省）に基づき 3 段階評価の平均値を活用

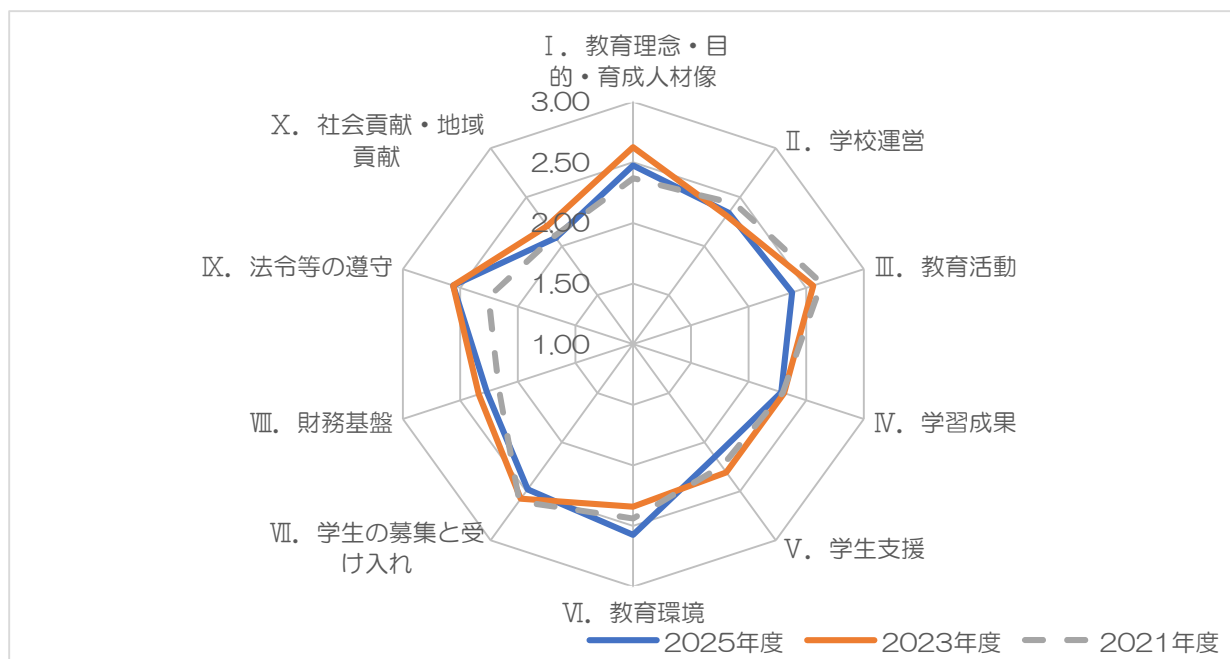


図 1 2025 年度 自己点検・自己評価結果（2025 年度/2023 年度/2021 年度比較）教職員

### 3. カテゴリーごとの総括評価

#### I. 教育理念・目的・育成人材像

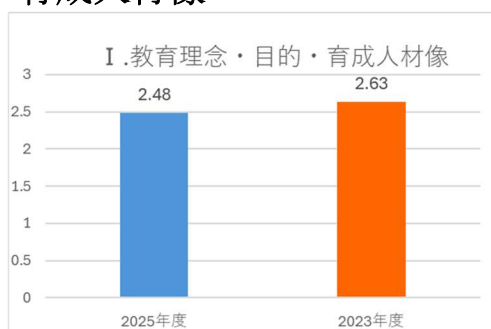


図2 教育理念・目的・育成人材像 2025年度と2023年度の比較

【評価】得点は前回比で0.15ポイント低下した。

本校は、設置主体の理念「社会的弱者に愛を・陽の当たらない子等に光を」を基盤に、教育理念、設立目的、教育目標及び育成人材像を明確にし、教育活動を展開している。また、少子高齢化や疾病構造の変化に対応した地域包括ケアシステムの構築を視野に入れ、看護を創造する力を養う教育を推進している。新カリキュラムでは、看護が行われるあらゆる場の理解と、生活者としての対象理解を重視し、重症心身障害児・者看護を強化した科目編成を行っている。加えて、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、地域包括支援センター、学校保健など、多様な場における実習を展開している。

一方、カリキュラム評価の過程において、設立目的に掲げる「社会福祉に貢献できる人材育成」の視点と、本校の教育理念・目的及び育成人材像との関連性について、さらなる整理と共有が必要であることが確認された。これらの点が、評価得点に影響を及ぼした可能性があると考えられる。今後は、社会のニーズや保健・医療・福祉のバランスを踏まえ、本校の人材育成像や教育活動が時代の要請に適合しているかを再検討する必要がある。

また、就職支援の一環として、設置主体の施設見学の機会を設けるなど、関連業界のニーズに対応した職業教育にも取り組んでいる。今後は、校関係者評価、卒業生の就職後の実態把握、臨床指導者会での意見収集を通じて、教育内容の妥当性を検証し、卒業教育や新人看護師の到達度評価を反映した教育体制の整備に向け検討を進めていく。

#### 《今後の課題》

1. 社会福祉の視点を踏まえた教育内容の検討
2. 臨地の卒業教育のニーズを反映した教育体制の構築

## Ⅱ. 学校運営

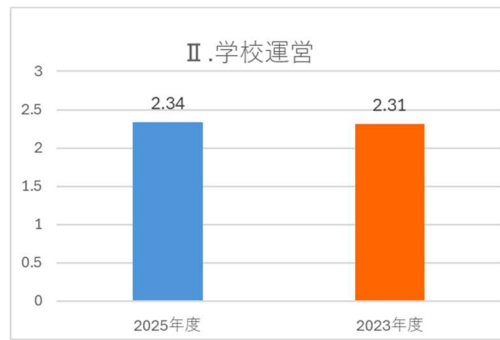


図3 学校運営 2025年度と2023年度の比較

【評価】得点は前回比で0.03ポイント上昇した。

本校では、年度末に事業計画の進捗管理を見直し、教育理念・目標・事業計画に基づく運営方針を明確化している。事業計画においては、執行体制及び役割分担を明確にし、PDCAサイクル（計画・実行・評価・改善）に基づいた運営を行っている。

2023年度の自己点検・自己評価において課題として挙げられていた「業務改善」「意志決定システムの強化」「情報システム化の汎用性向上」については、一定の改善が認められた。学年運営では、屋根瓦式組織の強みを活かし、学年会議の充実を通じて円滑な運営が行われている。また、各委員会や学年団においても業務分掌を意識した運営がなされ、年次振り返りを通じて組織的な整備が進められている。さらに、DX化の進展に伴い、学籍管理・学習管理システムの活用が進み、学生への情報伝達や業務効率化も一層向上している。これらの取り組みが、評価得点の上昇につながったと考えられる。

一方で、設置法人の組織運営に関する情報収集や参画意識については、教職員間で十分とは言えない状況が見受けられた。今後は、学校事務との連携を強化し、設置法人の仕組みに関心を持って取り組む意識の醸成が必要である。

また、教職員会議と学校運営会議との役割認識に一部ずれがあり、自由な意見交換の場は確保されているものの、ボトムアップで検討すべき事項とトップダウンで共有すべき事項の整理も今後の課題である。今後は、学校運営会議との役割分担及び役割理解についても、教職員間で共通理解を図り、適切な学校運営体制の構築に努めていく。

### 《今後の課題》

1. 学校事務との連携強化
2. 教職員会議と学校運営会議の役割理解の共有

### Ⅲ. 教育活動

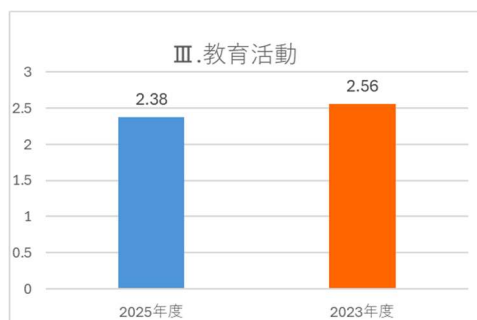


図4 教育活動 2025年度と2023年度の比較

【評価】得点は前回比で0.18ポイント低下した。

新カリキュラムにおいては、ディプロマポリシー(卒業時の到達目標)、カリキュラムポリシー(教育課程の編成・実施方針)、アドミッションポリシー(入学者受入方針)を明示し、体系的な教育課程の整備を進めている。また、社会人基礎力の育成を目的とした3年間のルーブリックを活用し、学年ごとの教育到達レベルを明確にしている。今後は、カリキュラム評価の結果に応じた検討を行っていく所存である。

キャリア教育では、学びをキャリアの一部として捉え、学生が段階的に専門職業人としての自覚を育めるよう支援を行っている。また、臨床指導者会・教育担当者会議・教育委員会への教員参加を通じて、臨床と教育の課題を共有し、看護実践力の向上に取り組んでいる。

一方で、本校は学生数及び実習施設が多いことから、専門領域における臨床経験を有しない教員が指導にあたる場面も見られ、専門外の授業を担当する状況や教員経験年数の差異が、教育活動への自信に影響していると推察される。これらの状況が、評価得点の低下の一因となったと考えられる。

そのため、本校では、教員の資質向上に向けて、授業改善や領域間の関連性・位置づけを検討するための研究授業の実施や、「省察的実践」「倫理における事例検討」をテーマとした講演会を開催し、教員が自身の教育活動を振り返り、改善につなげられる体制を整えている。また、2024年度からは教員ラダー、2025年度からはマネジメントラダーを導入し、教員の教育実践力の維持・向上に努めている。さらに、ピアサポート委員会でもラダー別研修を企画し、教員の資質向上を図っている。今後は、これらの取り組みを通じて、教員の資質向上が着実に進むよう、より計画的に推進していく。

評価得点低下のもう一つの要因に、学生による授業評価の回収率の低さが挙げられ、教員の自己評価と学生評価が、十分に授業改善へと活用できていない点が、今後の課題として残っている。今後は、科目別評価の導入や学生へのフィードバック方法の工夫、チューター面接との連動を図り、授業評価の回収率向上と活用促進に取り組んでいく。

最後に、資格・看護師免許取得に向けた支援としては、目標管理シートを活用したチューター面接を一年次から実施し、学習面における個別支援を行っている。また、国家試験対策委員による支援や、異学年交流を通じた学習支援にも取り組んでいる。さらなる資格取得に向け、認知症サポーター養成講座や心電図検定などの資格取得を促す支援も充実しており、継続的に学生の学習意欲と専門性の向上を支援する体制を整備している。

《今後の課題》

1. 教員の専門性を高める体制の強化
2. 教員の教育力向上の継続的支援
3. 授業評価の回収率向上と活用促進
4. 学習・資格支援の充実

## IV. 学修成果



図5 学修成果 2025年度と2023年度の比較

【評価】得点は前回比で0.03ポイント低下した。

2023年度の自己点検・自己評価における《課題改善に対する取り組み》は以下の通りである。

- i 学生一人ひとりの特性に応じた面接を行い、個別課題に対応した学習方略を支援した。
- ii 目標管理シートを活用し、成長の実感を促すとともに、看護への動機づけや学習の意味づけを支援した。
- iii 教員間で学生情報を密に共有し、学習支援の方向性を統一した。

さらにチューター面接では就職支援も含めた個別支援を継続的に実施し、その定着が図られている。

一方で、国家試験合格率は40期生93.1%、41期生88.0%、42期生93.1%と推移しており、100%達成には至っていない。そのことが、評価得点の低下につながっていると推察される。学力低下の背景には、①社会全般の学習意欲や学習時間の減少、②学習指導要領の変遷による基礎学力重視の揺らぎ、③受験倍率低下による学習への緊張感の希薄化が相互に作用していると考えられる。

この課題に対応するため、本校は2024年度から習熟度別クラス編成を導入した。導入の目的は、学生の学習到達度に応じた指導を行うことで、学習意欲を高め、基礎学力の定着と応用力の伸長を図ることである。特に、低得点層には基礎力の補強を重点的に行い、全体的な学力向上を目指している。導入後、得点上昇の成果は見られたものの、低得点層の改善には至っておらず、今後の課題として残っている。そのため、低得点者の進級判定を厳密化することを目的に、2026年度からGPA制度導入を目指している。

就職支援では、設置主体である「社会福祉法人枚方療育園」が運営する医療型障害児入所施設への就職を重視し、一年次から就職に関する意識の醸成に取り組んでいる。二年次にはインターンシップや履歴書指導、個別支援を通じて就職活動を支援し、9月には関連施設による説明会を開催することで、設置主体への就職意識の向上とミスマッチ防止を図っている。そして、社会福祉法人枚方療育園への就職率70%程度を目標に、面接支援や二次募集の活用など、安心して就職先を選択できる環境の整備を進めている。

昨年度の卒後進路状況は、社会福祉法人枚方療育園に62.9%、実習関連施設に13.8%と、卒業生の約80%が「社会福祉法人枚方療育園及び実習関連病院の就職」に結びついている。このことは、実習場の多様化や豊富な実習経験により、自分に合ったキャリアデザインが描きやすく、本校の設置目的や卒業生としての役割を自覚することにつながっていると考えられる。

また、卒業生の進路状況や職場での定着は、本校の学修成果として重要な指標であることから、2020年度より過去3年間の卒業後の就職状況調査を実施した。その結果、常勤勤務者は87.2%と安定した就業状況が確認された。今後は、新人看護師の到達度の把握や卒業生の研究業績や進学状況、離職率の把握を通じて教育内容の改善とキャリア支援の充実を図っていく。

《今後の課題》

1. 教育実践能力の向上
2. 国家試験合格率100%の達成
3. 卒業生の動向調査体制の整備と情報活用

## V. 学生支援

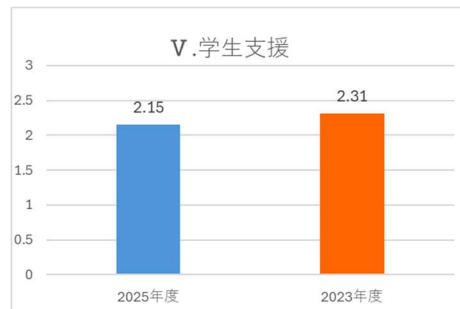


図6 学生支援 2025年度と2023年度の比較

【評価】得点は前回比で0.16ポイント低下した。

本校では、学生が安心して学業に専念できるよう、経済的支援・健康管理・学習環境の整備に努めている。スクールカウンセラーの配置に加え、設置主体である枚方総合発達医療センターの医師を校医として配置し、心身の健康管理体制を構築している。経済面では、関西看護専門学校奨学貸付金制度のほか、公的奨学金制度の相談・手続き支援を行っており、遠隔地からの学生には女子寮を整備し、学習に専念できる環境を提供している。学生生活の充実に向けては、学習面に加え、課外活動の推進も重要であり、異学年交流やクラブ同好会などを通じて、学生主体の活動の支援や卒業生との交流を図っている。

2024年4月からの障害者差別解消法の改正に伴い、合理的配慮を含む支援体制の整備も進めている。また、少子化の影響により高等教育への進学が容易になっている一方で、入学前の期待と学校生活とのギャップや目的意識の希薄さなどを背景とした退学が目立っている。昨今、学力の二極化から多極化への移行も進んでおり、学生の多様な背景に応じた支援が求められる。

退学理由には、学力不足、生活習慣の乱れ、精神的不調など多岐にわたるため、退学時期や理由を適時に記録・共有するシステムの整備が必要であると考えられる。このような整備不足や多様な学生に対する学習支援の難しさが、評価得点の低下につながっていると推察される。

卒業生支援においては、ホームカミングデーの開催や相談窓口の開設により、早期離職の予防やキャリアアップ支援を行っている。必要時、図書室・実習室の外部開放を進めることで、卒後の学びの場を提供している。しかし、卒業生の卒後の活動状況の把握が十分ではなく課題を残している。今後は、卒業3年目の交流会の開催などを通じて、卒業生の支援と共に、卒業生の声を教育に反映した体制づくりについて、検討を進めていく。

### 《今後の課題》

1. 退学防止と退学状況に関するシステムの整備
2. 多様な学習支援体制の構築
3. 卒業生ネットワークの整備とキャリア支援の強化

## VI. 教育環境

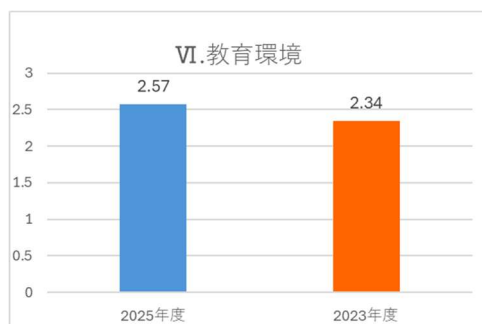


図7 教育環境 2025年度と2023年度の比較

【評価】得点は前回比で0.23ポイント上昇した。

指定規則に基づいた教育用具の整備や、高機能シミュレーターや各種モデル人形の導入により、演習環境の充実が進んでいる。2024年度の新校舎完成及びWi-Fi環境整備が、評価得点の上昇に寄与したと考えられる。今後は、高機能シミュレーターの活用頻度を高め、より臨地に近い学習支援の充実を図る。

実習に関しては、教育課程上の位置づけを明確にし、実施要綱・マニュアルに基づいて適切に運用している。また、実習病院との連携強化を継続し、臨床指導者会議の開催を通じて、実習指導の質向上に努めている。

さらに、2024年度より海外研修を再開し、研修では、他国の文化や社会的背景に視野を向け、医療及び福祉施設の視察、現地交流など貴重な体験を得る機会になっている。海外研修終了後は、研修発表の場を設け、他学生に対しても学びの共有を図っている。

安全管理面では、防災委員を中心に毎年地震・火災等の防災訓練を実施し、学校防災マニュアル及び学生寮防災マニュアルを整備している。計画的訓練と学生委員会による防災意識の周知や防災グッズの定期確認も実施している。今後は、看護師を目指す者として、被災者支援の視点を踏まえた防災訓練の在り方について進めていく。

### 《今後の課題》

1. 教育環境の活用強化
2. 実習の質保証と連携の継続
3. 海外研修の充実
4. 被災者支援を意識した防災訓練の導入

## VII. 学生の募集と受け入れ

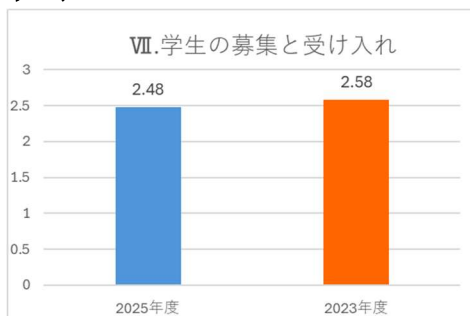


図8 学生の募集と受け入れ 2025年度と2023年度の比較

【評価】得点は前回比で0.07ポイント低下した。

2023年度の自己点検・自己評価における《課題改善に対する取り組み》は以下の通りである。

- i 効果的な広報媒体として、新たに SNS 広報を強化した。
- ii 現行のオープンキャンパスに放課後オープンキャンパスを追加した。
- iii 看護学校で学ぶために必要な学習量や、専門職者として求められる倫理観・規則、学校生活の実際をオープンキャンパスに反映した。
- iv 保護者目線で考えた、情報や校風が伝わりやすい内容を追加し、ホームページ・パンフレットを改訂した。
- v 高校との連携を強化し、広く本校の魅力を周知できるよう改善を図った。

学生募集活動としては、オープンキャンパスの開催、進路ガイダンスへの参加、Web 媒体やホームページによる広報を行っている。参加者の中心は高校3年生であるが、社会人や高校2年生の参加も見られる。しかし、2025年度の資料請求数は前年度より32.7%減少し、オープンキャンパス来場者数も18%減少した。評価得点が前回より低下した要因としては、大学志向・都市志向の高まり、少子化、看護職への不安などが挙げられる。今後は、オープンキャンパスにおいて、映像の活用などを通じて、本校の魅力がより効果的に伝わる取り組みを進める。また、高校訪問の強化や低学年向けの企画を通じて、さらなる受験生確保に努めていく。

入試制度については、2024年にA0入試を導入し、入学機会を広く設け受験しやすい環境を整えている。また、入学選考基準や方法についても規定に基づいて明確に定めている。可否については、入試判定会議を経て決定している。さらに、学力差や学習習慣の不足を少しでも改善するために、入学前学習を取り入れ、入学に向けた準備を整えていく。

### 《今後の課題》

1. 広報活動や受験生確保の工夫
2. 入学前からの学習支援体制の構築及び継続

## VIII. 財務

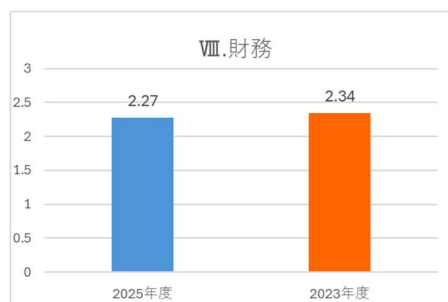


図9 財務 2025年度と2023年度の比較

【評価】得点は前回比で0.07ポイント低下した。

本校は、国および設置主体である法人の支援を受け運営されており、安定した教育環境の維持に努めている。現在、財政基盤に関する情報は法人全体として公表されているものの、教職員への浸透は十分ではない。その結果、財務に対する理解不足が評価得点の低下につながっていると推察される。今後は、枚方療育園の財務報告を参考にしつつ、学校事務を通じて、必要に応じた財務情報を教職員に適切に伝達する体制の整備を進めていく。

また、学生支援の観点から、同一年度内での受験費用への配慮や、給付型支援金制度の導入検討、授業料の見直しなど、経済的負担軽減に向けた施策を進めている。これらの取り組みを通じて、持続可能な学校運営と学生の学びを支える環境整備を図っていく。

### 《今後の課題》

1. 財務情報の透明性の向上
2. 学生の経済的支援の充実

## IX. 法令等の遵守

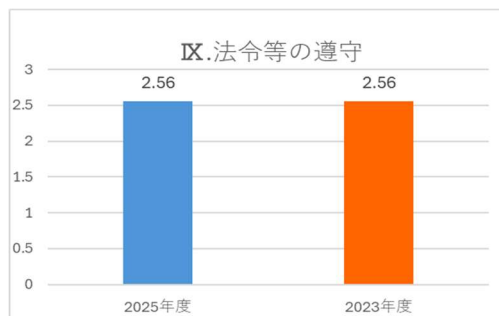


図 10 法令等の遵守 2025年度と2023年度の比較

【評価】得点は前回と同水準であった。

本校は、専修学校設置基準及び保健師助産師看護師学校養成所指定規則に則り、必要書類を提出し、適正な学校運営を行っている。自己点検・自己評価は2017年から隔年、そして2025年度より毎年実施し、その結果を公表し、評価に基づく学校改善に継続的に取り組んでいく所存である。

2022年度には自己評価結果を踏まえ、関連業界関係者・保護者・有識者等で構成された「学校関係者評価委員会」による外部評価を実施した。評価結果は報告書として取りまとめて社会に公開し、教育情報の透明性と情報公開の推進を図った。評価得点は、前回と同じであったが、今後の課題としては、評価結果を単なる公表にとどめず、教職員が内容を十分に理解し、教育改善に活用できる体制を整えることが挙げられる。

また、ハラスメント防止の徹底に関しては、ハラスメントマニュアルの作成や「ご意見箱」の設置を通じて、学生・教職員が安心して学び働ける環境の整備を進めている。

### 《今後の課題》

1. 評価結果を教育改善に活用する体制の整備
2. ハラスメント防止と相談体制の充実

## X. 社会貢献・地域貢献

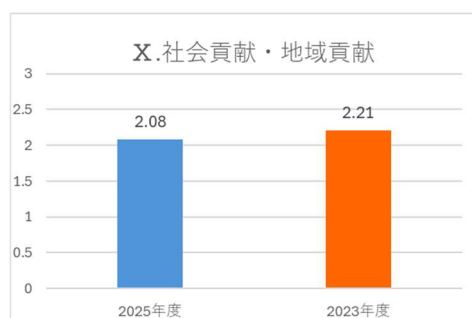


図 11 社会貢献・地域貢献 2025年度と2023年度の比較

【評価】得点は前回比で0.13ポイント低下した。

本校は、地域との連携を深めるため、関連施設に対して学校施設の開放（保育所の運動会や研修開催）、実習施設への教材貸出（シミュレーションモデル人形等）、卒業生への図書室利用の提供など、教育資源の共有を通じて支援を実施している。

地域貢献の一環として、認知症サポーター養成講座を実施し、図書室の地域公開についても検討を進めており、学生と地域住民との交流機会の創出を目指している。また、津田フェスティバルや秋祭りなどの地域行事に継続的に参加し、地域貢献に努めている一方で、評価得点は低下している。その要因としては、広報活動の不足や活動の意義が十分に共有されていなかったことが影響していると推察される。

国際交流においては、教員の英会話力向上を目的としてオンライン英会話を導入し、今年度は国際学会への参加を実施した。さらに、2024年度にはベトナム研修の再開を果たし、学生の社会的視野を広げる機会として積極的な参加を奨励している。

加えて、学生に対してはボランティア活動の意義を伝え、参加を促すことで、他者との関わりを通じた人間的成長の促進を支援している。これらの社会活動は、地域貢献の視点も含めて推進しており、現時点では地域との交流・連携を強化している段階である。本校は、これらの取り組みを通じて、地域社会及び国際社会とのつながりを深め、今後も継続的に推進する。

### 《今後の課題》

1. 地域交流・連携の強化
2. 国際交流の継続

## 4. おわりに

本校は、教育の質の向上を図り、地域に信頼され、選ばれる看護教育機関としての使命を果たす責務がある。今回の自己点検・自己評価を通じて明らかになった課題については、真摯に受け止め、組織的かつ継続的な改善を推進することで、すべての学生が安心して学業に専念できる教育環境の整備を進めていく。

本報告は、学校関係者評価の結果と併せて公開し、教育の質保証と社会的説明責任の遂行に資するものである。

今後は、本報告を基に次年度の改善計画を策定し、PDCA サイクルに基づく教育改革を着実に進める。未来を担う看護人材の育成に向け、一步一步確実に歩みを進め、教育の充実に取り組む所存である。

2026年3月  
関西看護専門学校  
自己点検・自己評価委員会